

「感染・療養状況、大阪モデル黄色信号点灯、及び 府民等への要請」に係る専門家のご意見

専門家	意見
朝野座長	<p>○感染状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全数届出は行われていないが、<u>傾向として感染者数は持続的に減少しており、病床数も減少傾向に転じている。</u> ・<u>これまでと異なり変異株の置き換わりは緩やかであり、急激な増加の要因になっていない。海外で置き換わりつつある XBB.1.5 も急激な増加はみられないが、注視している。</u> ・<u>インフルエンザの流行が続いているが、増加速度が鈍り始めた可能性があり、例年通りピークは 2 月の初めで、感染者数も例年を大きく超えることはないと予想される。</u> ・<u>新型コロナウイルス感染症の次の増加は、3 年間の経験から 3 月頃に予想されるが、変異株との関係が変動要因になるので、ゲノムの監視が重要。</u> ・<u>2 次救急の 80% が受け入れ医療機関になっているが、第 8 波においても救急搬送困難例が多くみられた。残りの 20% はなぜ受け入れできないのか、5 類化を見据えて課題の解決が必要。</u> ・<u>日常生活への回帰には感染者数の増加に備えて医療体制の確保がセーフティネットとして重要。診療所や 200 床以下の病床数の病院を中心に感染対策の十分でない医療機関に科学的なエビデンスに基づく感染対策を普及させることが、これから 5 類化に向けて急がなければならない課題であると考え。そのためには地域ネットワークの活用が効果的と考える。</u> ・<u>これまで日本の感染対策は主に概ね 300 床以上の病院を対象とした専門部署の設置を義務化した感染防止対策加算（2012 年以降）によって向上してきた。その反面、診療所や加算を申請していない中小規模の病院の感染対策が進まなかったという医療政策の問題点が、新型コロナウイルス感染症の医療ひっ迫の一因となったことを指摘する。</u> <p>○療養状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>感染者数の減少傾向に相関して病床数が減少に転じたが、重症病床の減少は遅れてこれからと考えられる。高齢の感染者の隔離期間後の後方支援病院の確保努力は今後も必要。</u> <p>○黄信号点灯について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>賛成。増加に転じる傾向にないので、事前の基準に則って実施すべき。</u>

専門家	意見
	<p>○府民等への要請内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を取り戻すためにも大規模イベントの収容率 100%にすることは賛成。プロ野球観戦などのスポーツイベントは「大声なし」に分類されるが、コロナ以前の応援のように大声を出したり、応援歌を歌う応援は制限されるのであろうか。あるいはマスクを着用すればよいのか、人との距離をとるなどの対策を執るのか、具体的な方法を示して混乱の無いように進めるべきと考える。

専門家	意見
掛屋副座長	<p>○感染状況について 陽性者の登録人数や検査に占める陽性率も減少し、<u>第8波がピークを超えて減少期に入っている</u>と考える。一方、今後のインバウンドの増加に伴い新たな変異株の流入や人々の行動拡大による再度の流行も危惧されるため、<u>流行状況を今後も把握していく必要がある</u>。</p> <p>○療養状況について 重症病床使用率は、数週間横ばい状態であるが、確保病床に占める病床使用率は14.1%程度で高くはない。また、<u>軽症中等症病床使用率は46.2%程度でピークを超えて減少傾向と考える</u>。宿泊療養施設利用居室使用率および自宅療養者数も減少に転じている。</p> <p>○黄信号点灯について <u>第8波の感染状況は落ち着いてきていると考えられ、大阪モデルの基準を満たす段階で「警戒（黄信号）」への移行に賛同する</u>。今後の新たな変異株等の推移を評価し、必要時には強いメッセージを発していただくことを希望する。</p> <p>○府民等への要請内容について 3年ぶりに季節性インフルエンザが流行しており、府民への呼びかけを行うことに賛同する。インフルエンザも呼吸器感染症であり、インフルエンザワクチンはもとより、<u>接触・飛沫・エアロゾル等の基本的な手指衛生やマスク、換気等の感染対策を行うことが望まれる</u>。<u>3年間実施してきた基本的な感染対策を社会である程度維持できることを期待する</u>。 <u>イベント等の開催制限の見直しに関しては、国の指針に沿って同様な対応を行うことに賛同するが、その見直しには「基本的な感染対策が産業界全体に定着し、概ね適切に実施されている」ことが背景にある。「基本的な感染対策の実施」が前提とされていることを参加者が理解する必要がある</u>。 <u>感染症法の2類相当から5類への移行が決定し、現在はその準備期間と認識して、なるべく多くの府民が3回以上のワクチン接種が完遂できるように推奨</u>いただきたい。感染症法上の分類が変わっても、当ウイルスに対してハイリスク者が一定割合、社会に存在することは変わらない。ウイズコロナ・ポストコロナの社会を迎える前に、高齢者・高齢者社会福祉施設等、ハイリスク者への対応を再確認する必要がある。</p>

専門家	意見
木野委員	<p>○感染状況について 新規陽性患者数が減少しているとのことだが、医療現場での感覚と一致する。今、コロナ感染に代わって、子供たちの間でインフルエンザ感染が増えている印象がある。</p> <p>○療養状況について 入院患者や重症者についても、ピークを過ぎた感がある。資料 1-1 の内容に同感。</p> <p>○黄信号点灯について 資料 2-1 で示されているように、現状のまま経過すれば、1 月 31 日には非常事態を解除する目安に到達すると予測できる。</p> <p>○府民等への要請内容について 現在の感染状況を鑑みて、今回の措置は府民の命と健康を守ると共に、コロナパンデミックにより大きく損傷された社会活動を再生し、維持発展するための止むを得ないものであることを府民に周知すること。しかし、経済活動の活性化とともに人流が増え、海外で感染が急拡大している XBB.1.5 などの変異ウイルスによるコロナ感染が再び拡大する危険性をはらんでおり、府民には、最新のワクチン接種と共に、基本的な感染予防対策をこれまで以上に要請する必要がある。特に高齢者や重症化の危険因子を有する人たちへの呼びかけを徹底していただきたいと思う。 イベント開催時の見直し要件についてだが、現在の大阪府の感染状況を考えれば、開催制限を一部緩和する方針に異存はない。資料 3-1 に同意する。</p>
忽那委員	<p>○黄信号点灯について 重症病床については高止まりが続いているものの、<u>軽症中等症病床の病床使用率は低下しており妥当と思われる。</u></p> <p>○府民等への要請内容について 特に小児のワクチン接種について、改めて接種の必要性を呼びかけていただきたい。大阪府の小児ワクチン接種率は全国最低水準であり、<u>抜本的な対策が必要な状況と考えられる。</u>小児の新型コロナワクチンの副反応は少ないこと、小児でもオミクロン株流行以降重症例が増加していることなど、改めて周知キャンペーンを行うなど対策をお願いしたい。 今後、5 類感染症となることから感染対策の緩和が進められることになるが、<u>ワクチン接種は社会活動・経済活動を阻害するものではなく、むしろ安全に社会活動・経済活動を行う上で重要な対策であることを、大阪府から発信していただきたい。</u></p>

専門家	意見
白野委員	<p>○感染状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症については全数届出ではなくなったので、報告数以上の感染者が相当数いると予想される。 <p>しかしながら入院患者数、病床運用率ともに減少傾向にあり、発熱外来の受診者数等からみても、<u>実際の感染者数も減少に転じていると思われる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入れ替わりに、<u>小児を中心にインフルエンザ患者が増加している。今後は成人のインフルエンザ患者も増加すると見込まれる。</u> <p>○療養状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関においても、新規入院患者数は減少傾向にある。 ・一方、依然として感染力は強く、医療機関や介護施設でクラスターが発生すると、局所的に入院患者が増えたり、救急搬送困難となることもある。 <p><u>引き続き、入院医療機関の采配は、地域の枠を超えて柔軟に対応していく必要がある。</u></p> <p>○黄信号点灯について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄信号点灯については、<u>予定通り条件を満たせば問題ない</u>と考える。 ・ただし、今後、高齢者や基礎疾患のある方のインフルエンザ患者が増えた場合、入院患者も増えると予想される。<u>コロナ病床の病床使用率を元にした大阪モデルだけでなく、救急搬送件数、応需率、インフルエンザの発生状況なども参考に、柔軟に対応していただきたい。</u> ・<u>新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したとしても、感染力や病原性が弱まるわけではない。</u>今後も感染者数に応じて医療機関や介護施設でのクラスターは起こり、病床ひっ迫、救急搬送応需率の低下も予想される。コロナ病床の病床使用率だけでない、あらたな「大阪モデル」に相当する基準を構築する必要があると考える。 <p>○府民等への要請内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>イベントの開催について、提示いただいた変更案については妥当なもの</u>と考える。 <p>制限の緩和、5類感染症への移行を見据え、広く府民には、以下のことを知っておいていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>ウイルスは、5類になったからといって感染力や病原性が弱まるわけではない。</u> ・<u>新型コロナウイルスの感染力は季節性インフルエンザよりもはるかに強く、適切な感染対策をとっていても、医療機関や介護施設内で感染が起こり、クラスターとなりうる。今後も医療機関や介護施設の機能が抑制されることは避けられない。</u> ・<u>高齢の方や心臓、肺などに持病がある方、免疫が抑制されている方などにとっては、生命を脅かすウイルスであることには変わらない。</u> ・<u>こういった方と平日頃から接している医療、介護従事者は、やはりコロナに感染した場合、今後も一定期間の就業制限は避けられない。</u> ・<u>弱毒化したと言われるが、重症化率や死亡率が下がっているのは、ワクチンの効果が大きい。</u>

専門家	意見
	<p>・今後も、コロナ感染によって持病の状態が悪化した患者さんや、コロナ以外の救急の患者さんの受け入れ先がなかなか見つからないことも予想される。</p> <p><u>5類相当となり、社会経済を元に戻していくことは必要である。そのためには、</u></p> <ul style="list-style-type: none"> —マスクを着用すべき場面では着用する —こまめな手指消毒を行う —十分な換気を行う —体調不良時には出勤や登校したり、遊びに出かけたりしない —ワクチン接種を受けるべき人は受ける <p>と言った<u>基本的対策は必要である。</u></p> <p><u>特にマスクについて、マスク不要という論調が盛んになっている。確かに、屋外や十分に換気されている場所、十分に距離が取れる場所ではマスクを着用する必要はない。「マスク不要」ありきでなく、着用すべき場面を明示すべきである。</u></p> <p><u>そして、有症状時の「咳エチケット」をあらためて徹底するよう、広く呼びかけていただきたい。</u></p>

専門家	意見
高井委員	<p>○感染状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規陽性者数は、年明けの一時期を除いて減少傾向にあり、ピークアウトに入ったものと考えられる。<u>一方で、感染のスピード（減少速度）と、波の「底」が、どの時点（高さ）で停滞するかによって、リバウンド時の様相が大きく変わってくる。オミクロン株の亜系統 XBB.1.5 等への置き換わりが進む可能性もあるため、ゲノム解析を含む引き続きのモニタリングが重要。また、多くの死亡者数の報告が続いており、<u>嚴重な注意が必要である。</u></u> ・<u>死亡者の実態把握に努めるとともに、高齢者施設等への医療・介護の対応支援を引き続き維持・継続すべきである。</u> <p>○療養状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床使用率についても減少傾向にあり、これまでの経験から、<u>当面は減少傾向が続くと思われる。</u> ・第8波において、<u>純粋なコロナの肺炎ではなく、誤嚥性肺炎等の「関連死」を多く対応した旨を聞いている。コロナ以外の疾患による入院長期化は当面続く可能性があるため、現場の看護師をはじめとする医療従事者へのフォローが引き続きの課題。また、（仮に）なし崩し的な入院依頼が続けば、受入病院の負担がはかり知れないことから、今後も行政による入院調整機能等を維持することは必要と思われる。</u> <p>○黄信号点灯について：<u>賛同する。</u></p> <p>○府民等への要請内容について：<u>賛同する。</u>留意事項等を下記に記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市においては、<u>高齢者等のインフルエンザ予防接種の接種期間延長がなされている（本年2月末まで）。</u>直近のインフルエンザ流行状況を踏まえると、<u>府内市町村でも同様の延長措置がなされるよう、大阪府から市町村への働きかけをお願いしたい。</u> ・イベント開催関係：<u>政府分科会で了承された内容と同様の方針であり、詳らかに意見を申し上げるつもりはない。しかしながら、自身が体調不良や、同居家族等でコロナ（疑い）の場合はイベントへの参加を見送る等の対応をお願いしたい。</u> ・また、<u>医療機関や高齢者施設等ではマスク着用を引き続きお願いすると考えられるため、ご理解いただきたい。</u> ・参考までに、昨年6月に国立研究開発法人産業技術総合研究所が公表した「<u>スポーツイベントの声出し応援に関する新型コロナウイルスの感染リスク評価</u>」の資料 URL を記載する。 https://unit.aist.go.jp/georesenv/res-geo/COVID19-Lab/AIST-new_research/AIST-new_research20220610-PDF-JLEAGUE-Koedashi-hyouka.pdf

専門家	意見
<p>倭委員</p>	<p>○感染状況について <u>新規陽性者数は全年代で減少傾向にあり、検査陽性率も1月30日時点で13.8%と減少傾向にある。一方、インフルエンザの感染者数は増加傾向にある。引き続き、基本的な感染対策を継続する必要がある。</u></p> <p>○療養状況について <u>軽症中等症病床使用率は、1月30日時点で46.2%と減少傾向にある。また、宿泊療養施設利用率や自宅療養者数も減少傾向にある。一方、重症病床使用率は、1月30日時点で14.1%と横ばいで推移している。ワクチン未接種者の呼吸不全の患者が引き続き発生しており、今後の推移に十分に注意する必要がある。一般病床の逼迫のため、コロナかどうか判明前の呼吸不全の患者の救急搬送困難例が多く見られている。医療体制の整備とともに、<u>早期診断、早期治療の徹底が必要である。</u></u></p> <p>○黄信号点灯について <u>病床使用率7日連続50%未満、重症病床使用率7日間連続40%未満の基準が1月31日とともに満たすことが見込まれる。<u>非常事態(赤信号)を解除し、警戒に移行(黄信号点灯)することは妥当である</u>と考える。</u></p> <p>○府民等への要請内容について <u>大阪府の府民等への要請内容について賛同する。基本的な感染対策の継続をお願いしたい。オミクロン対応ワクチンを未接種の方には、医学的に接種可能であれば、早急に接種をお願いしたい。重症化リスク因子があるものの、オミクロン対応ワクチンを接種されていない方においては、例え、オミクロンであってもコロナウイルス肺炎になる可能性が高く、入院治療を要し、重症化のおそれもあることをどうかご理解いただきたい。</u></p>